

# 『いのち』を考える

今を生き 未来をはぐくむ

① 5月15日(金)



## 松野 明美

元オリンピックランナー、タレント、熊本市議会議員

いちばんじゃなくて、いいんだね  
～生まれてきてくれて、ありがとう～

両親に喜んでもらいたくて始めたマラソン。マラソン選手時代は「いちばん以外はピリと同じ」「いちばんにならないと認めてもらえない」と信じて走っていました。しかし、ダウン症という障がいを持って生まれた次男の日々の成長や笑顔に触れ「人生は人との競争じゃない、いちばんじゃなくてもいい」と気づかされます。子育てで大切なことや息子の障がいに向き合って家族と共に歩んできた日々についてお話しします。

④ 6月5日(金)



## 小寺 洋一

臨床心理士、スクールカウンセラー

やってみて力を出し合って

22歳で中途失明した私は、以来、生きることの試行錯誤を続けてきました。障がい当事者として、カウンセラーとして、今を生きる人間として、自らの経験から大切だと知ったことをお話しします。そして、いっしょに未来に向かう力を見出せたらと思います。

② 5月22日(金)



## 小澤 竹俊

医師、在宅ホスピス専門医

緩和ケアから学ぶ“いのちの授業”  
～苦しみ・悲しみから学ぶ自尊感情・自己肯定感～

緩和ケアは、単に痛みを和らげるだけの医療ではありません。今まで気づかなかった自分の支えを苦しみや悲しみを通して学ぶとき、たとえ解決が困難な苦しみを抱えたとしても、穏やかさを取り戻します。人は真の支えが与えられたとき、自分を認め、人に優しくなります。

⑤ 6月12日(金)



## 家田 荘子

作家、高野山真言宗僧侶

この世に生まれ、生きて、生かされて  
～あと一歩前へ踏み出したいあなたへ～

今こそ、ご自分自身やご自分の人生を、大切に見つめる時が来たのではないのでしょうか？私もそうです。自分らしい生き方、思いやりある人生を送っていただくためのエールになれますよう、お話をさせていただきます。

③ 5月29日(金)



## 山下 京子

『彩花へ 生きる力をありがとう』著者

彩花がおしえてくれた幸福(しあわせ)  
～絶望の中に希望を拓くとき～

私が講演活動を続ける理由、彩花の誕生から事件で亡くなるまで、大切な我が子の死から学んだことや私自身、乳がんの発病と再発転移したことを通じて、人とのつながり、家族の絆、ほんとうの幸せとはについて、お話しさせていただきます。

⑥ 6月19日(金)



## 岩崎 順子

いのちの講演家

五感で受け継がれるいのち  
～父親のおなかの上で遊ぶ～

幼い子ども達は震えながら泣いていました。「お父さん、死んだら段々カチカチになっていくんやなあ」悲しみでいっぱい表情は少しずつ変化していき、父のおなかに馬乗りになって遊びました。ガンが病気という枠を超えて「いのち」に向き合わせてくれた時間がそこにありました。

(敬称略)